

1

問題のページへ

$$(1) J^2 = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} = -I \text{ から,}$$

$$J^3 = (-I) \cdot J = -J, \quad J^4 = (-I)^2 = I$$

$$(2) aI + bJ = \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & a \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 & -b \\ b & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix} \text{ より, } (aI + bJ)^{-1} \text{ が存在する条件は,}$$

$$a^2 + b^2 \neq 0$$

すなわち, $(a, b) \neq (0, 0)$ である。

$$(3) (1) \text{ より, } J^2 = -I, \quad J^3 = -J, \quad J^4 = I \text{ から,}$$

$$sI + (1+st)J + tJ^2 + st^2J^3 + t^2J^4 = sI + (1+st)J - tI - st^2J + t^2I \\ = (s-t+t^2)I + (1+st-st^2)J$$

ここで, $(s-t+t^2)I + (1+st-st^2)J$ に対して, 次式を仮定する。

$$s-t+t^2 = 0 \dots\dots\dots, \quad 1+st-st^2 = 0 \dots\dots\dots$$

このとき, より $s = t - t^2$ となり, に代入すると, $1+s^2 = 0$ となり不成立。

したがって, $(s-t+t^2, 1+st-st^2) \neq (0, 0)$ となり, (2) から任意の実数 s, t に対して, $(sI + (1+st)J + tJ^2 + st^2J^3 + t^2J^4)^{-1}$ はつねに存在する。

[解 説]

逆行列についての基本的な問題です。

2

問題のページへ

(1) $x^3 + ax^2 + bx + c = 0$ (*)の解の1つが純虚数 $x = ki$ ($k \neq 0$) より,

$$k^3 i^3 + ak^2 i^2 + bki + c = 0, \quad (-ak^2 + c) + (-k^3 + bk)i = 0$$

a, b, c は実数より,

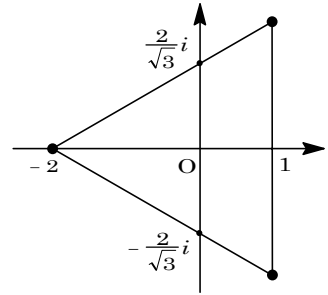
$$-ak^2 + c = 0 \dots\dots\dots, \quad -k^3 + bk = 0 \dots\dots\dots$$

より, $k \neq 0$ から $k^2 = b$ となり, 代入すると, $ab - c = 0$ である。

(2) $x^3 + 8 = 0$ より, $(x+2)(x^2 - 2x + 4) = 0$

$$x = -2, \quad x = 1 \pm \sqrt{3}i$$

すると, この3つの解が表す点を頂点とする三角形は右図のようになる。



また(1)より, (*)は, $x^3 + ax^2 + bx + ab = 0$ となり,

$$(x+a)(x^2 + b) = 0, \quad x = -a, \quad \pm \sqrt{b}i$$

$$a > 0 \text{ から, } -a = -2, \quad \sqrt{b} = \frac{2}{\sqrt{3}}$$

$$\text{よって, } a = 2, \quad b = \frac{4}{3}, \quad c = ab = \frac{8}{3}$$

[解 説]

(2)において, (*)の純虚数解はすぐにわかってしまいます。解と係数の関係を用いるまでもありません。

3

問題のページへ

- (1) 駒が左回りに移動する確率は $\left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$, 右回りに移動する確率は $\left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$, 動かない確率は $1 - \frac{1}{4} - \frac{1}{4} = \frac{1}{2}$ である。

さて, X_2 が A であるのは, 駒が A A A, A B A, または A C A と移動する場合より,

$$P_2 = \left(\frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{4}\right)^2 + \left(\frac{1}{4}\right)^2 = \frac{3}{8}$$

- (2) 最後の X_4 のみが A であるのは, X_2, X_3 が B または C のときである。

まず, B にある駒が動かないか, または C に移動する確率は $\frac{1}{2} + \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$ である。

また, C にある駒が動かないか, または B に移動する確率も同じく $\frac{3}{4}$ である。

これより, X_2 が B のとき, X_4 のみが A である確率は,

$$\frac{1}{4} \times \left(\frac{3}{4}\right)^2 \times \frac{1}{4} = \frac{9}{256}$$

X_2 が C のとき, X_4 のみが A である確率も $\frac{9}{256}$ から,

$$Q_4 = \frac{9}{256} + \frac{9}{256} = \frac{9}{128}$$

- (3) (2)と同様に考えて, X_2 が B のとき, X_n のみが A である確率は,

$$\frac{1}{4} \times \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2} \times \frac{1}{4} = \frac{1}{16} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2}$$

X_2 が C のとき, X_n のみが A である確率も $\frac{1}{16} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2}$ から,

$$Q_n = \frac{1}{16} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2} + \frac{1}{16} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2} = \frac{1}{8} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2}$$

- (4) X_{n+1} が A となるのは, X_n が A のときは駒が不動であればよいので, その確率は $\frac{1}{2}$, また X_n が A でないときは, X_n が B であれば右回り, X_n が C であれば左回りに駒が移動すればよく, その確率はいずれも $\frac{1}{4}$ なので,

$$P_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{1}{4}(1 - P_n), \quad P_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{4}$$

これより, $P_{n+1} - \frac{1}{3} = \frac{1}{4}(P_n - \frac{1}{3})$ と変形すると, $P_1 = \frac{1}{2}$ から,

$$P_n - \frac{1}{3} = \left(P_1 - \frac{1}{3}\right) \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1} = \frac{1}{6} \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1}$$

よって, $P_n = \frac{1}{3} + \frac{1}{6} \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1}$

[解 説]

(4)の設問で, 頭の切換えができるかどうかポイントです。

4

問題のページへ

$$(1) f(x) = \frac{4x+a}{x^2+1} \text{ より, } f'(x) = \frac{4(x^2+1) - (4x+a) \cdot 2x}{(x^2+1)^2} = -\frac{4x^2+2ax-4}{(x^2+1)^2}$$

$x = \frac{1}{2}$ で極値をもつことより, $f'(\frac{1}{2}) = 0$ が必要であり,

$$4 \cdot \frac{1}{4} + 2a \cdot \frac{1}{2} - 4 = 0, \quad a = 3$$

$$\begin{aligned} \text{このとき, } f'(x) &= -\frac{4x^2+6x-4}{(x^2+1)^2} \\ &= -\frac{2(2x-1)(x+2)}{(x^2+1)^2} \end{aligned}$$

x	...	-2	...	$\frac{1}{2}$...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	\searrow		\nearrow		\searrow

よって, $x = \frac{1}{2}$ で極大となるので, $a = 3$ である。

$$(2) f(-2) = -1, \quad f\left(\frac{1}{2}\right) = 4, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = 0 \text{ より, } y = f(x) \text{ の最大値は } f\left(\frac{1}{2}\right) = 4, \text{ 最小値は } f(-2) = -1 \text{ である。}$$

$$(3) I = \int_0^1 f(x) dx = \int_0^1 \frac{4x+3}{x^2+1} dx = \int_0^1 \frac{4x}{x^2+1} dx + \int_0^1 \frac{3}{x^2+1} dx$$

$$\text{すると, } \int_0^1 \frac{4x}{x^2+1} dx = 2 \left[\log(x^2+1) \right]_0^1 = 2 \log 2$$

また, $x = \tan \theta \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2} \right)$ とおくと,

$$\int_0^1 \frac{3}{x^2+1} dx = 3 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta = 3 \int_0^{\frac{\pi}{4}} d\theta = \frac{3}{4} \pi$$

$$\text{よって, } I = 2 \log 2 + \frac{3}{4} \pi$$

[解 説]

微分と積分の計算問題です。

5

問題のページへ

(1) $f(x) = 4x^3 - 3x + \frac{1}{2}$ より,

$$f'(x) = 12x^2 - 3 = 3(2x+1)(2x-1)$$

よって, 極大値 $\frac{3}{2}$ ($x = -\frac{1}{2}$), 極小値

$-\frac{1}{2}$ ($x = \frac{1}{2}$) となる。

x	...	$-\frac{1}{2}$...	$\frac{1}{2}$...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗		↘		↗

(2) 公式 $\cos 3\theta = 4\cos^3\theta - 3\cos\theta$ に, $\theta = \frac{2\pi}{9}$ を代入すると,

$$\cos \frac{2\pi}{3} = 4\cos^3 \frac{2\pi}{9} - 3\cos \frac{2\pi}{9}, \quad 4\cos^3 \frac{2\pi}{9} - 3\cos \frac{2\pi}{9} + \frac{1}{2} = 0$$

よって, $x = \cos \frac{2\pi}{9}$ は, 方程式 $f(x) = 0$ の解である。

(3) $k = \cos \frac{2\pi}{9} > \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$ より, k は方程式 $f(x) = 0$ の最大の

解である。

ここで, $f\left(\frac{3}{4}\right) = -\frac{1}{16} < 0$ なので, 右図より $k > \frac{3}{4}$ となる。

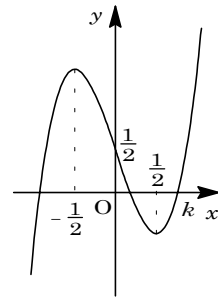
(4) $g(x) = \cos x - x$ とおくと, $g'(x) = -\sin x - 1 < 0$ から,
 $g(x)$ は単調に減少する。

ここで, $3.14 < \pi < 3.15$, また(3)より $\cos \frac{2\pi}{9} > \frac{3}{4}$ なので,

$$g\left(\frac{2\pi}{9}\right) = \cos \frac{2\pi}{9} - \frac{2\pi}{9} > \frac{3}{4} - \frac{2\pi}{9} > \frac{3}{4} - \frac{2}{9} \times 3.15 = 0.05 > 0$$

$$g\left(\frac{\pi}{4}\right) = \cos \frac{\pi}{4} - \frac{\pi}{4} = \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{\pi}{4} < \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{1}{4} \times 3.14 = \frac{\sqrt{2} - 1.57}{2} < 0$$

よって, $g(x) = 0$ すなわち $\cos x = x$ の解はただ 1 つ存在し, それを $x = \alpha$ とするとき, $\frac{2\pi}{9} < \alpha < \frac{\pi}{4}$ となる。



[解 説]

3 倍角の公式と 3 次方程式を対応させて, 三角関数の値を絞り込む有名な問題です。ただ, 誘導が親切なので, 過去問の経験がなくても不安は感じないでしょう。